

まんがで知る 未来への学び

これからの社会をつくる学習者たち

前田康裕
文と漫画

◇まえがき

本書を書くこうと考えたきっかけは、二人の教え子との再会でした。

一人は、私が初任一年目の勤務校で小学校三年生を担任したときの教え子でした。ある地域づくりの集会で偶然私となり座った男性がまさにその子だったのです。すでに四十歳となっており、ふるさとのまちづくりのために尽力したいという思いを語ってくれました。

もう一人は、初任四年目の二番目の勤務校で小学校の五年生を担任したときの教え子でした。彼とは熊本市内の商店街でばったりと出会ったのです。彼もまたふるさとのまちづくりのために都会から帰ってきていたのです。

あまりの偶然に驚いた私は、じっくりと話をする機会を設けて、彼らのふるさとのまちづくりに対する熱い思いと悩みを聞くことにしました。そして、少子高齢化と人口減少によって地方が衰退していく現状に正面から取り組む彼らの姿に大きく心を動かされました。

これは単なる地方の問題ではありません。日本という国が直面している従来の社会の仕組みや人々の価値観の問題であり、教育の在り方に大きな関わりがあると私は考えたのです。

戦後の日本は物のない時代でした。だからこそ人々は、ひらすら働き、物質的な豊かさを追い求めてきました。そして、年を追うごとに経済は成長し、個人の生活は豊かで便利なものになりました。

しかし、今、急速に発達してきたテクノロジーによって、社会の仕組みも人々の価値観も大きく変化してきています。インターネットは、われわれに多くの情報をもたらす便利にしてくれましたが、一方では、個人の権利ばかりを主張し、他人を平気で非難し傷つける行為が蔓延する「生きにくい社会」になっているような気がしてなりません。

そんな中、平成二十九年三月に新しい学習指導要領が公示されました。その中核となる考え方は、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という「社会に開かれた教育課程」です。この理念に私は大いに共感しています。そういう社会や学校の実現を心から願っています。しかし、実現するためには、学校教育現場の努力だけでは困難であり、多くの人々の理解と協力が必要だと考えています。

そこで、学習指導要領とその基となった中央教育審議会答申をベースにし、自分なりの解釈でストーリーを作り、学校関係者以外の方にも読んでいただくようと考えて書いたものが本書です。教師だけに向けた教育書とは異なり、より多くの方々に分かりやすいように教育用語の解説も加えました。職種や世代を超えて、みんなでこれからの教育について考えていくためのきっかけになれば幸いです。

各章の最後のページでは、「未来の社会を考えるビジネス書」というコラムをもつけました。きつと、これからの自分の人生や未来の社会を考えるきっかけになると思います。

前田康裕

第1章

部活動と教育課程

——教育課程とは何か—— 9

コラム◎未来の社会を考えるビジネス書 ①

アダム・グラント『GIVE & TAKE』—— 28

第2章

学習指導要領

——社会に開かれた教育課程—— 29

コラム◎未来の社会を考えるビジネス書 ②

スコット・バリー・カウフマン、キャロリン・グレゴワール

『FUTURE INTELLIGENCE』—— 48

第3章

新しい時代に求められる資質・能力

学習の基盤となる資質・能力 ————— 49

コラム◎未来の社会を考えるビジネス書

③

山崎亮 『縮充する日本』 ————— 68

第4章

社会の変化

学び続ける力 ————— 69

コラム◎未来の社会を考えるビジネス書

④

中原淳 『働く大人のための「学び」の教科書』 ————— 88

第5章

学ぶ意義の明確化

なぜ学び、どういった力が身に付くのか ————— 89

第6章

学習者の視点

教える側から学習する側へ

109

コラム◎未来の社会を考えるビジネス書

5

木下 斉 『地方創生大全』

108

第7章

学習評価の充実

相互評価と自己評価

129

コラム◎未来の社会を考えるビジネス書

6

若宮正子 『60歳を過ぎると、人生はどんどんおもしろくなります。』

128

コラム◎未来の社会を考えるビジネス書

7

ステイブ・スローマン&フィリップ・ファーンバック
『知ってるつもり 無知の科学』

148

問題発見・解決能力

—— 持続可能な社会づくりの担い手を育む ——

149

コラム◎未来の社会を考えるビジネス書

③

佐渡島庸平 『WE ARE LONELY, BUT NOT ALONE.』

168



第 1 章

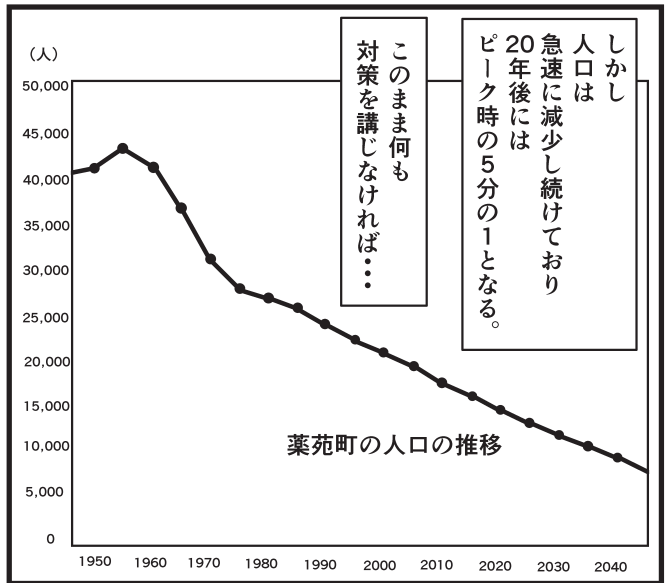
部活動と教育課程

教育課程とは何か

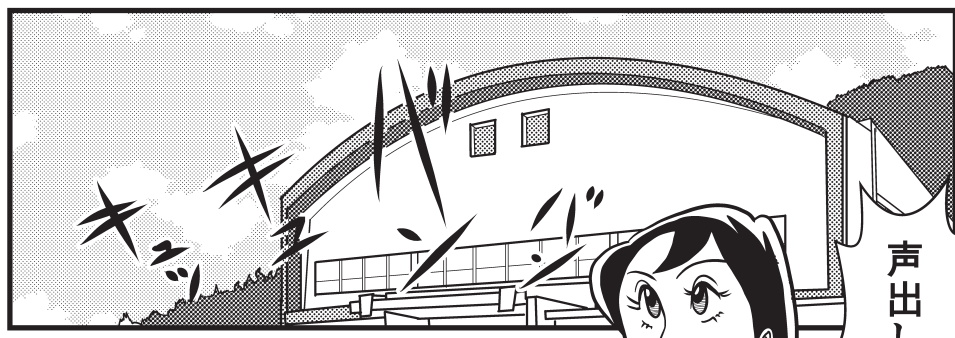
やくせんちょう
薬苑町

県の中心地から車で90分の
自然豊かな町である。

市町村合併を
繰り返して
現在の町が誕生した。



葉苑町立
葉苑中学校



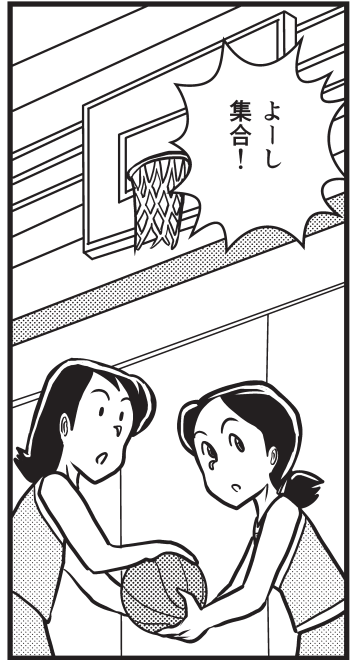
声出していくよ！



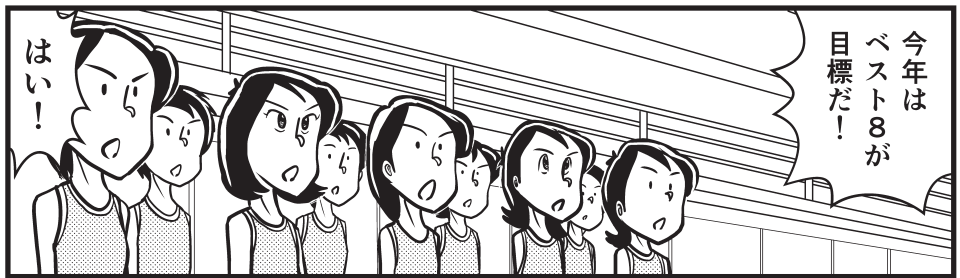
はいっ！

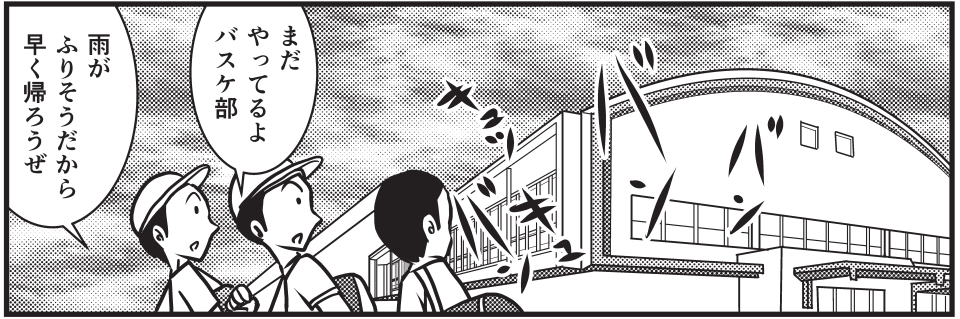
はいっ！

美術教師 2年1組担任
女子バスケットボール部 副顧問
桜山 さやか(32)



国語教師 2年2組担任
女子バスケットボール部 顧問
りゅうなん かつろう
竜南 勝郎(40)





雨が
ふりそうだから
早く帰ろうぜ

まだ
やってるよ
バスケット部

竜南先生は
バスケット経験者だから
指導もできるけど……

わたしは
全くの初心者……



そこ
すぐに
ディフェンス!

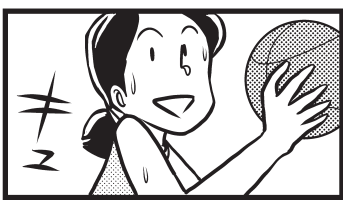
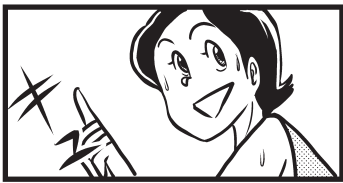


でも……

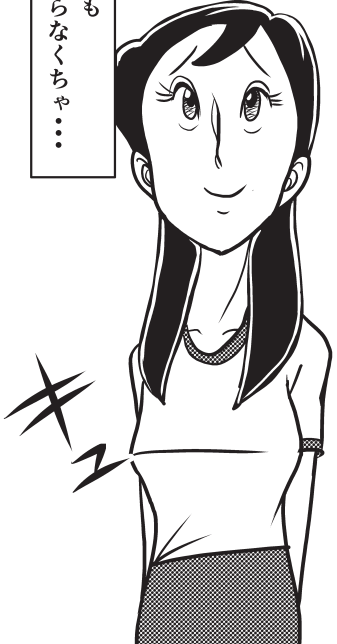


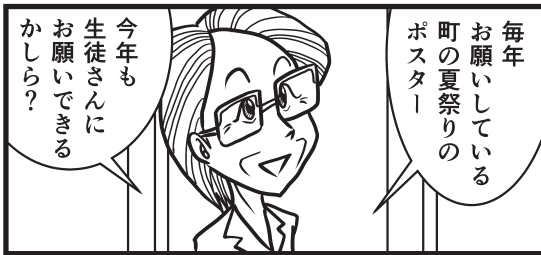
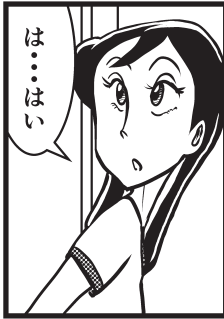
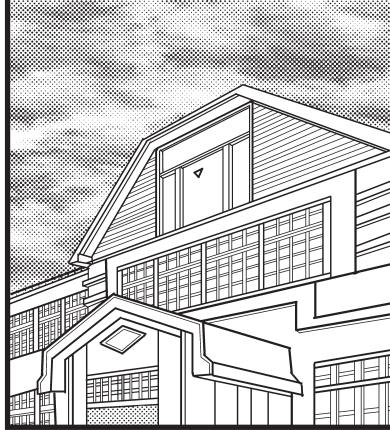
シューッ!

子どもたちは
がんばってる



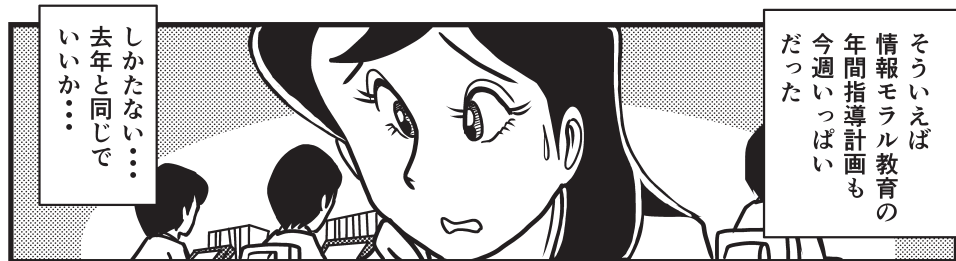
わたしも
がんばらなくちゃ……



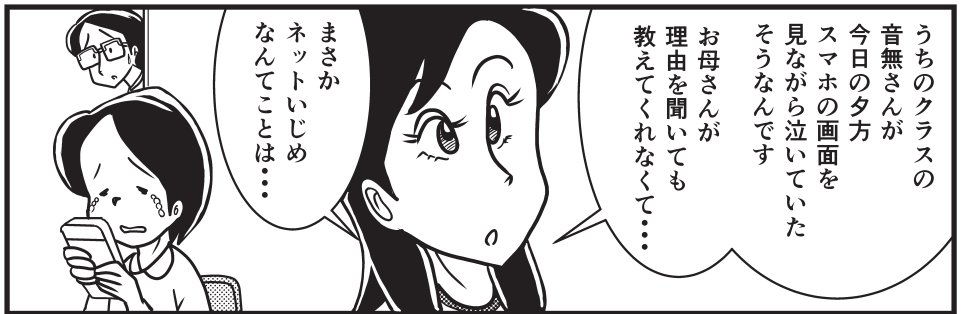
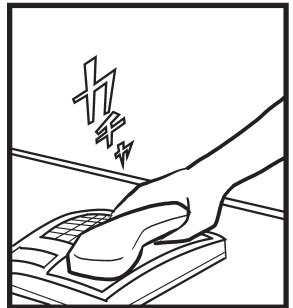
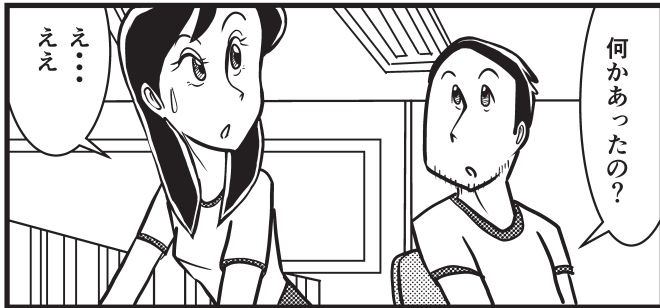
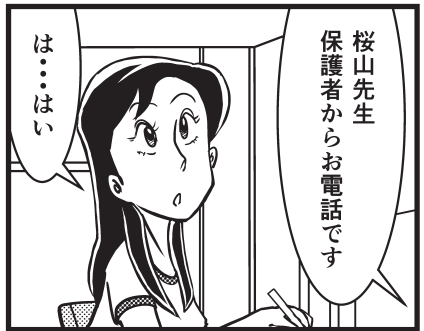
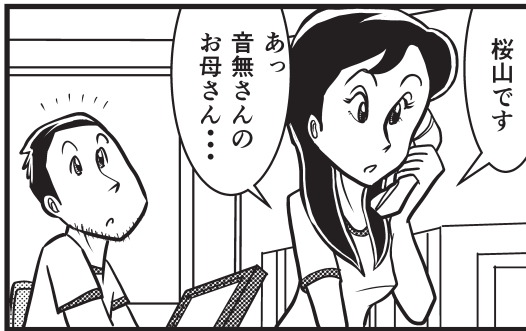


薬苑町 女性部長
いんてりかこ
印手 理佳子(74)





※ 学校が小規模になれば教員の数も少なくなる。ある教科を担当する教師がない場合、1年間に限って他教科の教員が免許外の教科を担当する(免許外教科担任制度)。



たとえ学校外で
起こったことでも
学校の人間関係に
よるものであれば
学校の責任が問われる…

ネットいじめで中学生自殺

ネットで悪口 頻繁に

SNSで仲間外し

スマホの

スマホを買い与えたのは
保護者なのに…

明日
音無さんに
話を聞いてみよう

キーン

全く
スマホは便利なんだか
不便なんだか…

やべっ！

家内から
メッセージが来てた！

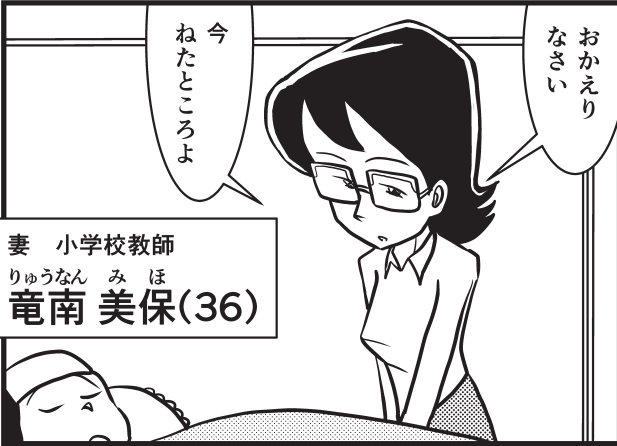
子どもが
熱出したみたい…

じゃ
お先に…

お…
おつかれ
さまでした

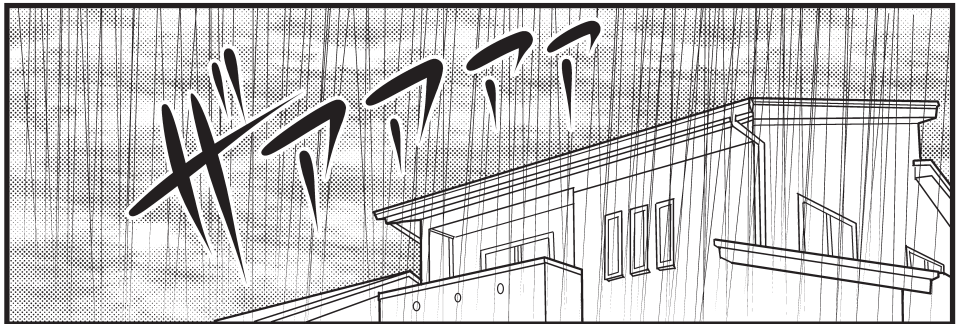
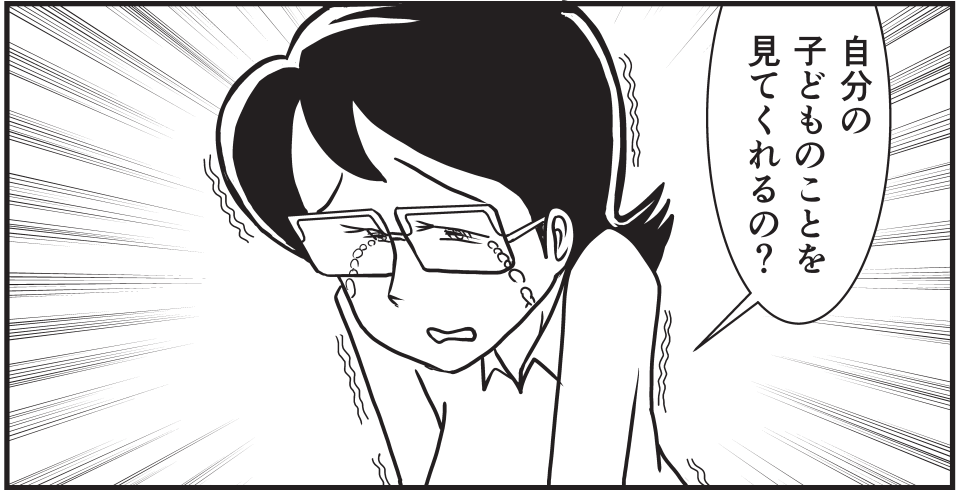
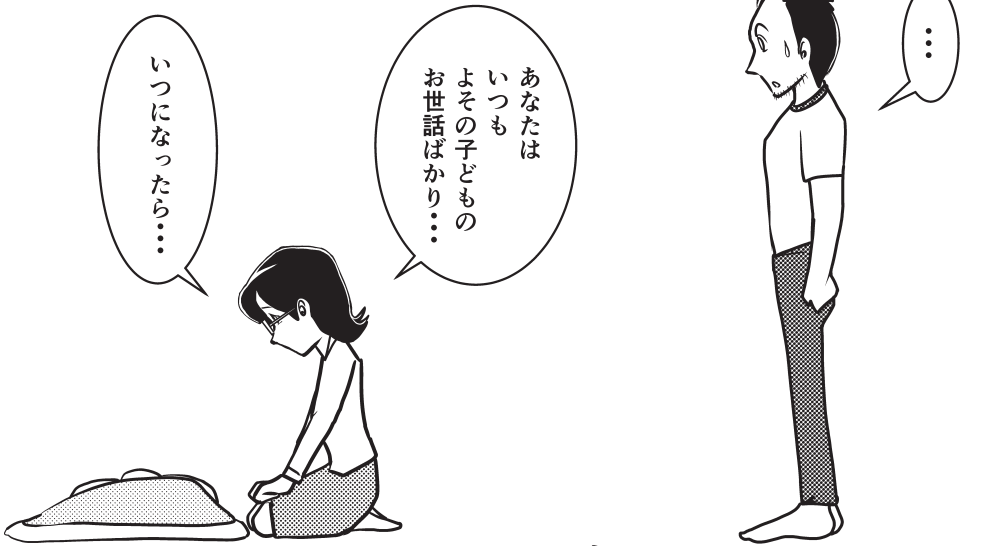
心配する
家族が
いるって

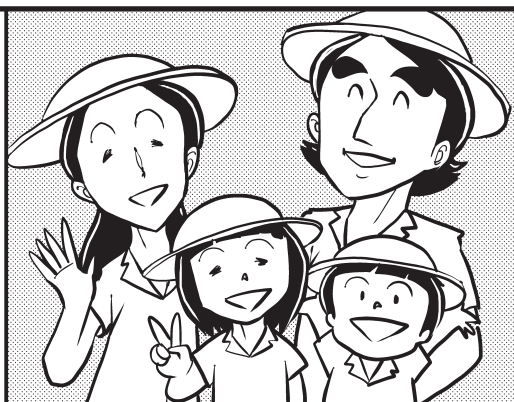
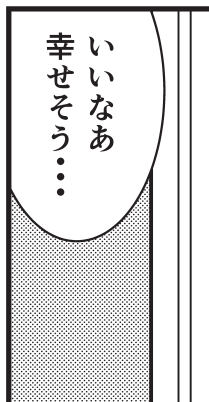
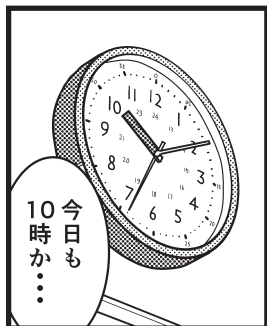
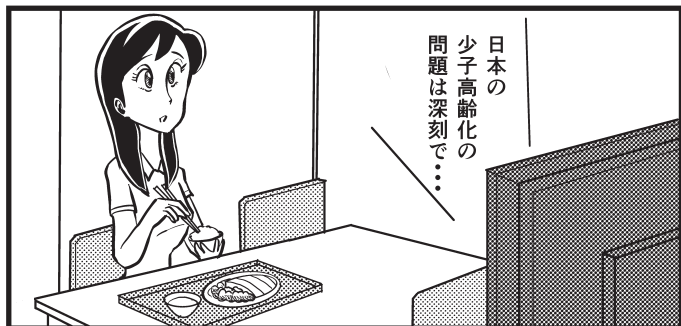
なんだか
うらやましいなあ

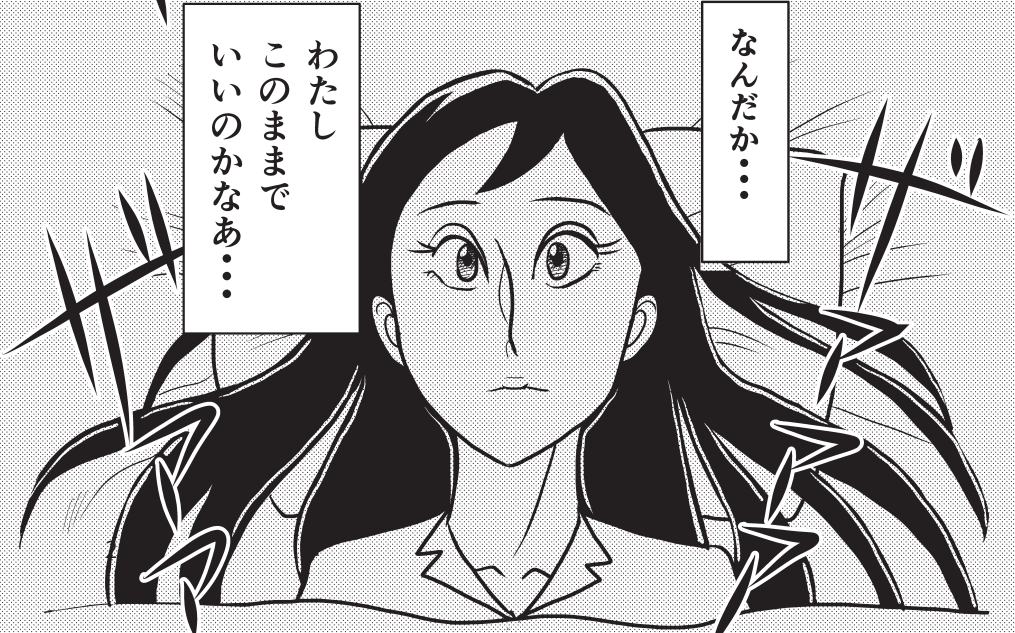
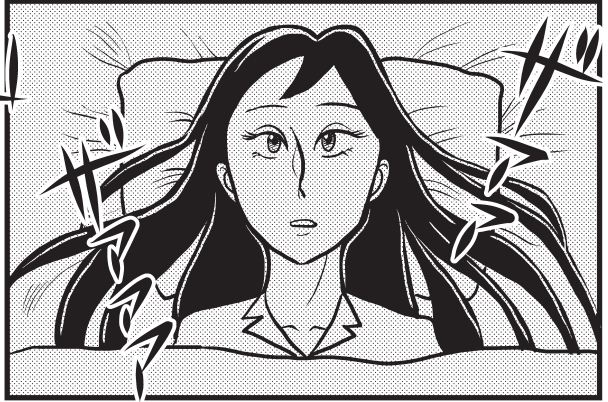
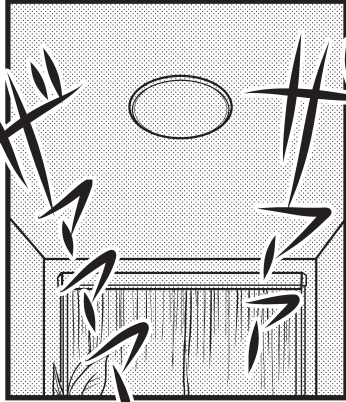
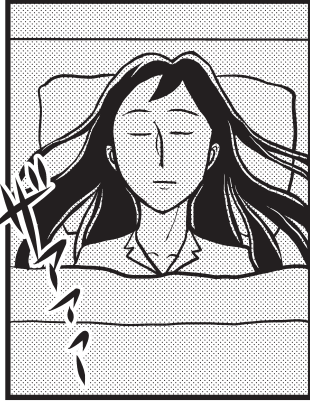


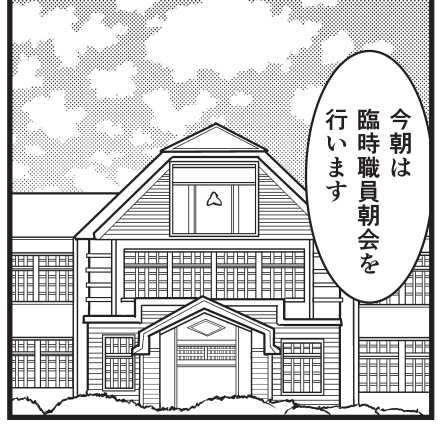
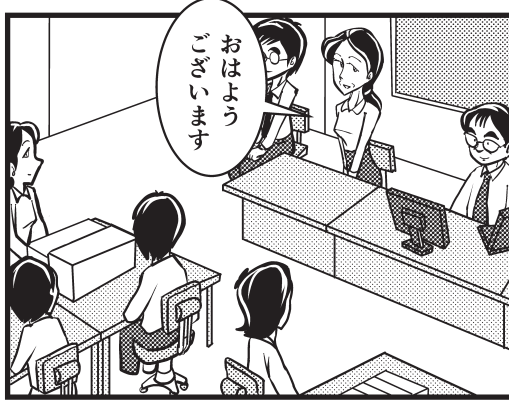
妻 小学校教師
りゅうなん みほ
竜南 美保(36)





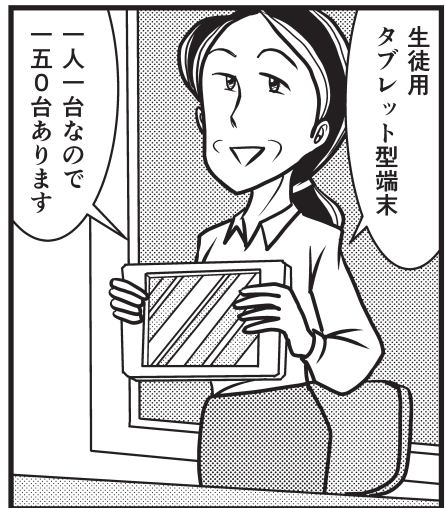
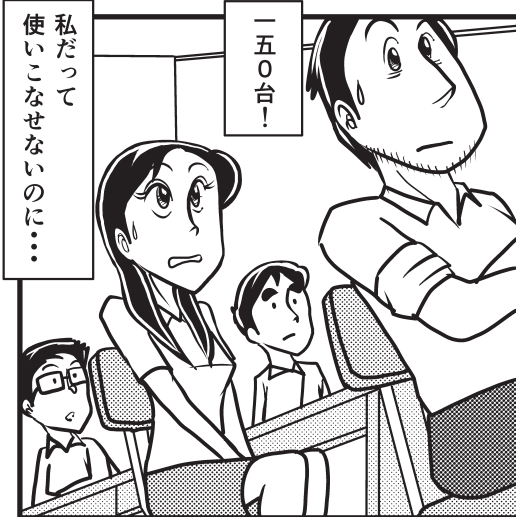
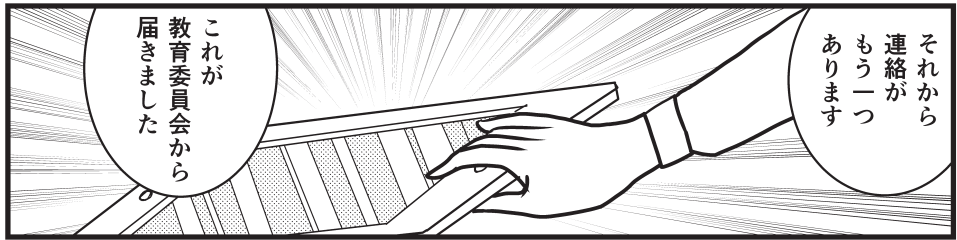
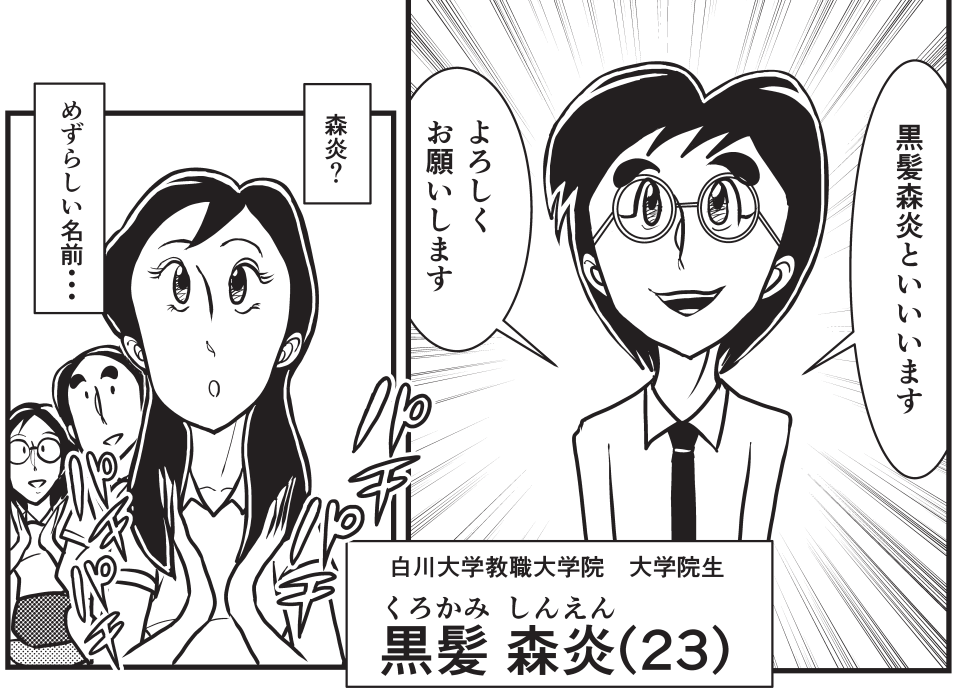


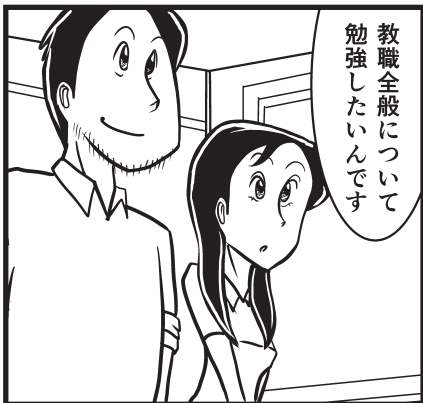
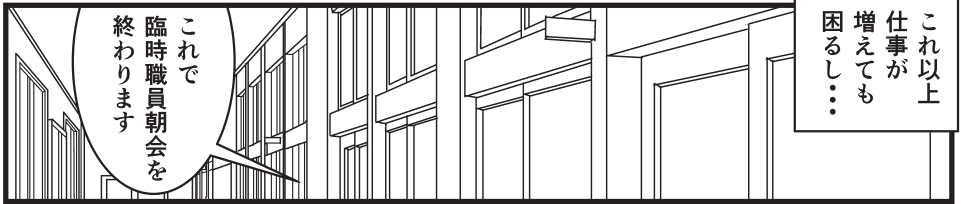
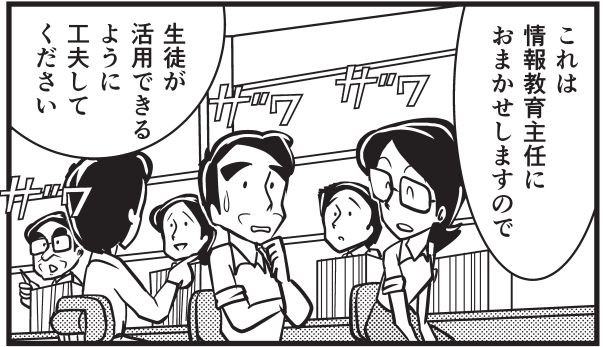


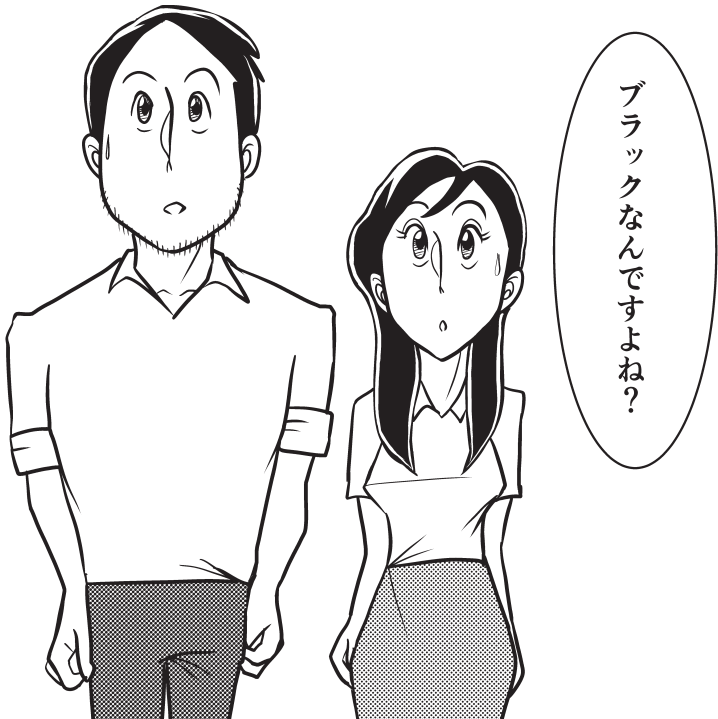
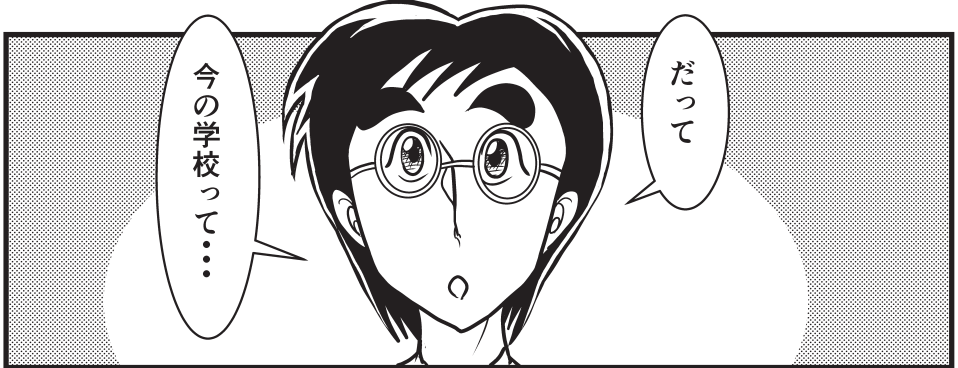
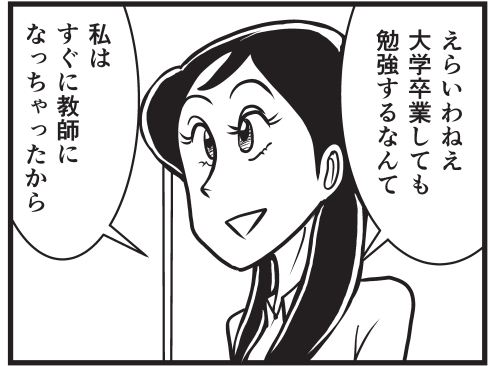


校長
おだ や かな
小田 矢香奈(53)









部活動と教育課程

まんがの中で竜南先生は、勝利のために部活動終了予定時刻を過ぎても練習を続けます。また、桜山先生は、子どもたちのためにと自分に鞭打ってがんばり続けます。

竜南先生は経験者ゆえに指導に自信があり、勝利できたときの喜びを味わわせたいという思いがあるでしょう。しかし、部員の中には定時に帰宅し、自分の時間を過ごしたい子どももいるはず。また、予定時刻を過ぎてもなかなか帰ってこない我が子を心配している保護者もいるでしょう。しかも、竜南先生は自分の家族をなおざりにしています。このように教師が自分の価値観を盲信するあまり、他者を犠牲にしていることではないでしょうか。

一方、桜山先生は全くの未経験者。部活動の担当者が割り振られるために、自分を犠牲にして指導している状態です。筑波大学の研究チームが平成29年に報告した資料※によると、担当する部活動に必要な技能を備えていない場合、メンタルヘルス（心の健康）が不良となる傾向が出ています。また、男性教師に比べて女性教師のほうがメンタルヘルスの状態が悪いという結果も出ています。桜山先生のような未経験者が運動部活動を指導することは大きなストレスとなっているのです。

※ 筑波大学「教員勤務実態委託事業「メンタルヘルス」研究チーム」「学校における働き方改革特別発表資料」平成29年

◎教育課程とは何か

学校には教育課程というものがありません。それは、各学校が行わなくてはならない学習内容とその計画を指します。学校教育法施行規則には次のように書かれています。

第七十二条 中学校の教育課程は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の各教科（以下本章及び第七章中「各教科」という。）、道徳、総合的な学習の時間並びに特別活動によつて編成するものとする。

つまり、部活動は本来、教育課程外の「生徒の自主的な活動」として位置づけられるものです。それが、全国を頂点とした大会などを目指し勝敗を競うようになり次第にエスカレートしていったのです。また、怪我がおきた時の学校の責任が問われるようになり、多くの教師が何らかの形で担当しなくてはならなくなっています。これが教師の長時間労働の原因ともなり、社会問題化しているのです。

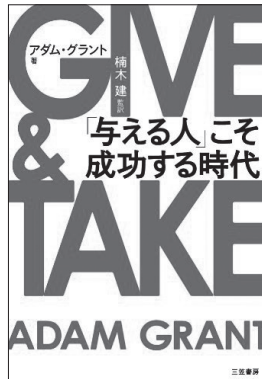
時代が変われば、教育課程も変わります。総合的な学習の時間やICT教育など、新しい教育が次々と盛り込まれています。教師には、そうした新しい教育課程に対応するための知識や技能を習得する時間が必要です。部活動を否定するつもりはありませんが、教育課程よりも部活動が優先される状態では本末転倒と言わざるを得ないのです。

GIVE & TAKE

「与える人」こそ成功する時代

アダム・グラント

(楠木健監訳、三笠書房)



全米トップクラスのビジネススクール「ペンシルバニア大学ウォートン校」の教授であり心理学者であるアダム・グラントがビジネスで成功する秘訣を書いた本です。

グラントは人間を、ギバー（人に惜しみなく与える人）、テイカー（真っ先に自分の利益を優先させる人）、マッチャー（損得のバランスを考える人）の3タイプに分け、成功するのはギバーだと主張します。なぜならば、ギバーは「自己犠牲」ではなく、みんなの幸せのために高い成果を出すことを目的とする「他者志向性」があるからだと言われます。ギバーは自分にとっても意義のあることや自分が楽しめることをみんなのために行うことができるので、他者から感謝され成功につながるというわけです。

組織や他者のために自分を犠牲にすることが美德だと考えがちな日本人には極めて有効な示唆を与えてくれる本だと言えましょう。